

4 月のイースターの時にイギリスの JK という大会に参加しました。

2011 年 4 月 イギリス  
JK オリエンテーリング大会

## イースターのビッグイベント

イギリスでは、毎年イースターの 4 連休(3 月か 4 月)に、JK という名の(人の名前らしい)約 3000 人が集まるイベントが開催されています。種目は、1 日目がスプリント、2 日目と 3 日目がロング(エリートのみ、2 日目はミドル)、4 日目はリレー(3 人)というパターンです。今年は、北アイルランドのオープンランドをメインに開かれ、日本人は、イギリス留学中の星野智子選手(W21E)と私(M45)が参加しました。スウェーデン、ノルウェーなど近隣諸国からもたくさんの参加者があり、スウェーデンのかのヨルゲンモルテンソン(M50)も元気に走っていました。



リレーのフィニッシュレーンを走る星野選手

## 1 日目:スプリント

ベルファスト市内のある大学の構内でのスプリントレースでした。初日ということで遠くからの参加者のことを考慮し、午後からのスタートとなっており、特にドイツから飛行機を乗り継

いで遅くに現地入りとなった私は、予め遅めのスタートをお願いしたので、17 時 30 分過ぎのスタート。既にエリートの表彰式も終了し、なんともっていた天気も堪え切れず雨まで降ってきました。初めは、この雨で滑りやすくなっていたことと慣れないスプリントでロスの連続でしたが、徐々にペースを掴み、最終的にはなんとか目標とした 20%以内にかろうじて入りました。星野選手も彼女の得意の種目ということもあり、まあまあ満足のいくレースだったようです。

## 2 日目:ロング

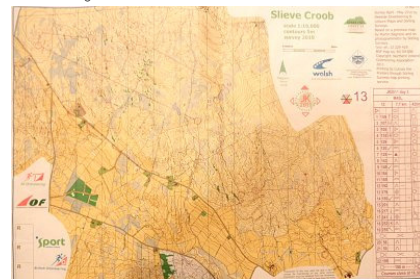
ベルファストから南へ車で 1 時間、海岸近くの軍隊の演習場がテレインでした。道がほとんど無い難解なオープンであることは事前にわかっていたので、1 番コントロールを慎重に行こうと思っていたのですが、見事に現在位置をロスし、なんと 1 番まで行くのに約 10 分のロス。その後も細かいミスを繰り返して、結局 20%の目標にはほど遠い全体の真ん中あたりでした。



## 3 日目:ロング

事前に旧マップが公開されていて、道の無い片斜面のオープンランドの中に湿地が帯状に何本も横たわっているというテレインで、一度現在位置を見失うと多大な時間のロスと体力を消耗するよう思われました。2 日目のミスのせいで既に疲れが見えてきてしまった自分としては、とにかく現在位置を大きく見失わないことを目標にしました。前半は慎重に慎重を重ねたおかげで途中 1 分くらいのミスを 2 箇所ほどしたものの大きなミスはなく、最後の 4 分の 1 は後ろから追い抜いていった非常に速いオリエンティアの背中を追う展開となり、前日の疲れを吹き飛ばすような爽快な走りことができました。結果は上から 30%くらいの位置でした。なお、この日のエリートクラスは IOF(国際オリエンテーリング連盟)の WRE(World

Ranking Event)に指定されていて、私が所属するロンドンオリエンテーリングクラブの仲間がイベントアドバイザーをやっていた関係で、私は審判に指名されていました。幸いにして審判としての出番はありませんでしたが、エリートの最終ゴールからある一定の時間まで会場にいることを余儀なくされました。



## 4 日目:リレー

欧州に来て 4 年半になります。同じクラブ員のメンバーと共に最初で最後のリレーとなりました。クラブを決めるクラス以外にも、様々なクラスがあり(12 歳以下のクラス、3 人の年齢の合計が 40 歳以下、3 人の年齢の合計が 165 歳以上など)、自分は「男子のショート」というクラスに 1 走として出場しました。この日のテレインは大きなミスをした 2 日目と全く同じところであったため、自分としてはどうしてもリベンジを果たしたいという気持ちがありました。他の 2 つのクラスと同時スタートだったのですが、予想通り、スタート直後の道上でのみんなのスピードは速く、あっという間に先頭とは大きく差がついてしまいましたが、オープンに入るといろいろな方向に散ると同時にスピードも遅くなり、ほとんどミス無くオープンランドを抜けた自分はこの時点で「男子のショート」のクラスでは、全体 39 チームの中の 7 位にいたようです。その後 2 人に抜かれ、9 位になりましたが、充分リベンジを果たせました。

## トレイル 0

この JK にはトレイル 0 も併設されていて、今回は 1 日目に「※Temp 0」のデモンストレーション、2 日目と 3 日目に通常のトレイル 0 が行われました。自分は 2 日目と 3 日目にエントリーしていたのですが、2 日目は体力切れと他の用事のためやむを得ずキャンセルし、3 日目は前述の審判のためトレイル 0

開始締切時刻ぎりぎりの 16 時 30 分に滑り込みました。自分がトレイル 0 をするのは 5,6 年ぶりであり、競技会に出るのは初めてでしたので、予め小山太郎さんに電子メールでアドバイスをいただきましたが、それでもなかなか馴染めず、地図の精度やら、丸の中心の示す範囲がどのくらいの範囲なのかなど、不満が溜まる一方でした。

一通り回って(21 個もあるとは思いませんでしたが)ゴール後正解表をもらう時は、学生時代のテスト結果を受け取る時の気持ちを思い出しました。

思っていたよりも良くない成績だったのですが、周りの熟練者と思われる人たちがほぼ満点に近い成績を挙げているのを見ると、やはり相当な訓練が必要なのだなと改めて感じました。また、その中にドイツで非常にお世話になっていた人に約半年ぶりに再会し、彼がほんとうに真剣にトレイル 0 に関わっているのを見て、自分がいい加減な気持ちで参加したことを非常に恥ずかしく思いました。(彼はある時事故に会い、それ以降走ることができなくなったものの、フット 0 の運営には積極的に関わってくれていて、ドイツ西部ではなくてはならない人になっています)

#### ※Temp 0

トレイル 0 の競技種目の一つ。定められた場所で、それぞれに一つの円が描かれた複数の地図を与えられ、それぞれの地図に対するコントロールフラック<sup>o</sup>が左から何番目にあるかを、できる限り短時間で回答する競技。円の中心にコントロールが無い地図も有り得る。世界選手権にも採用されることが決定している。

## もうすぐ帰国

ヨーロッパでの赴任終了を目前にしてのヨーロッパ各国の大会にてここ 2 ヶ月ほどで、イギリスでの JK 以外に、スロバキア、ポーランド、エストニアで参加者 500 人くらいのレースにたて続けに出場したのですが、どのレースでも歓迎してもらえ、日本人参加者が一人にも関わらず参加国の一つとして必ず日の丸を会場に掲げてもらいました。

また、子供たちの参加者が多いことにも驚きました。ポーランドでは 20 歳以下の参加者が全体の半分近くを占めていましたし、JK もそうでしたが、家族での参加が目を見ました。読者の皆さんの中には、お子さんがご自分の始めた時の年齢になられた方も多くいらっしゃるかと思います。是非お子さ

んを連れて大会に参加し、日本のオリエンテーリング界をより一層活性化していきたいものです。

(稲葉英雄)